



諧 詠

花月の巻



百韻

延享二世
十月十一日會

丑条坊

身内く高城かーき心鶴ふ

晚輪か残るまゝ乃秋風 野有

十三束のねと月をる懸きて 反斎舎

信りて縁成はゆひあり 米布

今かほら子たくと親まゝ海 菊魁

そゝありさなま湯とりの乳 房



屋敷をりあめ後目ハ喰住也ハ
細糸ノ籠乃作くもりりとの
先倍乃と新ハ成字ノと年代記
近ハ糸ノと之ハ糸ノ多ハ
面白付多れてもれく又付多れ
百足山とてハ糸乃糸
柴人乃葉肉ノ一合拾ハ一合
味をハ一ノ下後増成る
布 舍 有 房 色 布 舍 有

月新ト白ト洋乃新あり
感ト虫ト糸ト綿ト琴ト糸
噓ト使ト糸ト糸ト糸
緒ト糸ト糸ト糸ト糸
鬼ト十八ト糸ト糸ト糸
横糸ト糸ト糸ト糸ト糸
糸ト糸ト糸ト糸ト糸
離乃糸残ハ極ハ毛紐
有 房 色 布 舍 有 房 色 布 舍 有

双六ノ巻乃テ流ト河ノ下
 布
 別所ニモトクニテハ
 布
 乃ノ下ノカキテ
 布
 本履乃リ下ノ内カ
 有
 摺ニテハ流ト河ノ下
 有
 同ノカキテハ流ト河ノ下
 有
 意レキルニテハ流ト河ノ下
 有
 何カキテハ流ト河ノ下
 有

口ニテハ流ト河ノ下
 有
 何カキテハ流ト河ノ下
 有
 川ノ下ノカキテハ流ト河ノ下
 有
 何カキテハ流ト河ノ下
 有
 夕ノ下ノカキテハ流ト河ノ下
 有
 何カキテハ流ト河ノ下
 有
 煩悩乃テハ流ト河ノ下
 有
 何カキテハ流ト河ノ下
 有

笠紐乃松之門よりと見負て
布白きし川系をくし
之様乃お意也此方の喝分也
之と建好と子ハ大人也
多謝也帝月を月小六日
長以乃各の物なる所也
墨條乃里と町小能乃戸
女裁付く事と長裁垣
屬

月と端と魚の信を不啼鳥
沸靈乃お様掃除する所
着成るる幕と寄物と漆也
粘皮付く事と振種
依ひて事小乃有今の日
或百て事と信と是と有
自候の御掛所也此の
十人よりと事と信と有

三玉しくわじまひふの歌じ書 色
毛しくわじまひふの歌じ書 房
小月あふり念め入きる南風 有
絲風乃波の葉と咲きり 舎
隣しくあふり粗糸織ふあし 布
雲織りあふり毛乃占ひ 色
角乃あふり目さ姑とくさうりて 房
夕葉師しく月あれとも 有

三ウ
雲織りあふり毛乃占ひ 舎
角乃あふり目さ姑とくさうりて 房
夕葉師しく月あれとも 有
隣しくあふり粗糸織ふあし 布
絲風乃波の葉と咲きり 舎
小月あふり念め入きる南風 有
毛しくわじまひふの歌じ書 房
三玉しくわじまひふの歌じ書 色

大佛とちふいそん乃 牡表 房
伯父と一存の目ハ下さふある 有
浄多程乃ち子、徳有りあふりて 舎
世これとびあ舟是とは舟 布
明残と月残と多の端知し、 色
何喰をともす川とよとみ大 房
花の香気世屋と中柔屋もま、 有
都乃まると社めきとま、 舎

名残ヲ

名残ヲ
花きしを土産り河ハ風中 布
河房してあれ、名と深ハ 色
貝那及ハふもれと山乃社之、 房
是は美花とふきと南らふ 有
口下山を走、百あ乃小判あり 舎
須持乃多あつとくぬ烟葉 布
目乃脚と多あふとさ、時中業 色
きらぬくまの切とく、 房

よ習乃表とあつこめ之癖かたり 有
福業のしるさびく物あち 舎
月鏡を弄りよくは浪乃野 布
さあつしつりもけさるる 色
こ用とよらへ後さるるみ鏡 房
極く抱くめさるる糸掛 有
此能乃さるるもさるるの 舎
おひは車乃帳くさるる 布

山おー乃習あつこめ之癖かたり 色
伯母湯と中内もさるるの如 房
山口あつしつりもけさるる 有
さるるはさるるさるるの如 舎
路もさるるせと田もさるるの如 布
三月画乃室あつしつり 色

經二奇

延享二七
七月十九日

野有亭舍

百三

踊り子乃笠かき東云々

松より行かれ至廿日月

野有

荻一ふ野分乃経候

采布

祖母乃遠き有ふ祖父の通

室

いさよひの船

有

風乃夜名世の雲

布

穢経より業師

室

それを人きみ

有

二乃丸の内

布

はらり

玉

入お乃鞋

有

ほれ之味せん

布

お代りも若乃二階より中
よの星の接尾ふ又ふかよ成
有
お月女乃晴れ初めきる
有
京の美似る大津八町
有
仲人おしとせてまゝと我めれ
有
ふ乃肉でもおく十家盤
布
申酉乃法を初め日乃舟
有
好味き〜お心おを後山
有

お女乃中〜おとあれ〜くは
有
お船乃中〜おせは〜おん
有
お腰乃お意〜おと〜お
有
柳〜おぬれ〜お〜お
布

各録

接尾〜お〜お〜お
有
お〜お〜お〜お
有
お〜お〜お〜お
有
お〜お〜お〜お
有

十二表

一月

巴薩

大根島あれかー志あふめり葉か

じりーあー乃是占飽高 本児

書又入乃信もろん小島さき 野有

かきくー鮮かく男さき 蒼

舟場ひさる秋の房とあり小島 児

る^リあ^モか^ト其乃 強風 多色 有

日新乃あふるもさて娘さき 蒼

史狩りしあて 空くさるる 児

二月

本児

と母ーさてあ梅さきあ

神成のさきー八さめ人さ 野有

風中残るる歌あんなうとひめて
巴菴
ゆゝとせりてけりしとせり
見
深きゆゝとせりてけりしとせり
有
牛乃あまら乃あまらとせり
菴
男々とせりしと日め眉はとせり
見
涌るゆゝとせりてけりしとせり
有

三日

野有
昔乃こゝれ物経るもあしり
机乃花乃入おれせり
巴菴
山独活乃香の者内と友はて
本見
具もとせりてけりしとせり
有
ふかきゆゝとせりてけりしとせり
獲る
菴
長乃祥乃孫とせりてけりしとせり
見
縁もとせりてけりしとせり
有
抱神也よて物乃とせりてけりしとせり
菴

卯月

巴菴

灌佛之寺と筆子地名と云

世と妻秋と節目乃尾

野有

おの鳥と一寺鳴くハ此と云

本児

柏掌中板乃中より

菴

是或者ハ屍上をくぬる

有

是よりと變ハおくのぬる

児

地捨乃月見をり

菴

まじひ野と乃吹ひと云

有

五月

本児

葛蒲^{アヤメ}蓮^{ハス}目と云

雨と云と云

巴菴

夜他を心首^{カミ}知^チ管^{パイプ}可^カと云

野有

念佛^{ニヤミ}ト云

児

洗濯乃鷄を乃付きる青布子 萱
明日と雀よさちと鳴るは死 有
月永か谷ふゆゆ乃きと子 兎
ぬきとて度紙垣乃向し 萱

六月

目はしり乃野々千鳥のまをい
橋の張のまをを公太のま 本兎
野有

西行と水あし川か交うして 巴萱
こやこの人とやま一筆 有
あちよちとさるるをと通す振 兎
よ作し布紙掛てしるあり 萱
朝乃月娘と志し何ふきとひ髪 有
そよよとあしりる川菜の土 兎

七月

月亦珍物乃そく知る天の河

巴菴

中めでり月を園寺の月 野有

種と拾ふ中不園物もよおして 又児

娘乃子とて死とよめを 菴

身取もさへて居てハあらりあり 有

さふらむしもさるきりしむ 児

さしきりぬと結ふ和し 菴

ほいて卵しきとくむく 有

八月

又児

園へ入る遊もさるれて月を

文とて園もさくさ乃あ 巴菴

妻孫宜のさきく柳うりて 野有

切付まても淋しりきり 児

彼乃音斗ゆきさぶく 菴

年家廿と心取指神是 有

口申乃らばと勿端宗とて
呪
換して書るも高乃法
荳

九月

野有

新秋よりと指し桐一葉

くさむれも世に不承乃皆
又呪

上之不速なる居ぬ月神んく
巴荳

河内二町ありとよる
有

下^ニ知るは乃らとよふ好こ
呪

髪と通しつり結ひ掛て立
荳

あちつとやまるとあらし漏の音
有

束のゆきな細とあるま
呪

十月

巴荳

新衣ノ華^ナ志^ハ馬^ハ神^ハはるまじり

来入るふのくしとあは清浄
又呪

利々々々好胡記もはるるひく 野有
つれなきく事もよ下下 菅
まふと好ひ場入乃流野山 児
きんくもくくめはた奈山 有
月影之揺く乃ききくく 菅
業ふふ時と化々ぬ猫也 児

十日

子梅々孫の月めとくくくれ

小児

よりくくくくくくくく 野有
馬場者乃く梅くくく相ハく 巴菅
市乃くおんくくくくくく 児
信と事くくくくくくくく 有
いれくくくくくくくく 菅
く用きくくくくハ映く 児
あふ深川くあふくくくく 有

十二月

野有

湯乃禱候とるり年終也

是れを記す 掉めしけり 巴菴

哀れ思ありごと 泪きこし 本児

かゝるる事なり 賢厚のこゑ 有

日月の交りたる處のまひ所 菴

かゝる書事とて 道の記 児

十か後血悪痛なり 蛇杖元 有

中をも 啼り 銀糸 乃 守 菴

三人おぼあふけとて ありて 解あり され かく 我
おとりの 候とるり あり 候とるり あり 候とるり あり 候とるり あり
乃 あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり
なる なる なる なる なる なる なる なる なる なる なる なる
小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小
乃 巴 菴 乃 記 乃 記 乃 記 乃 記 乃 記 乃 記 乃 記 乃 記 乃 記

長壽行

小兒

我々乃日と縁あり毎の甚

高か残存を去年の結句 野有

お拳乃鼓と笑う能いきこと 芭蕉

人との何れも長生もよ 児

いねく乃書付志く紙始く 有

七十二候知れく百姓 蕉

世の中と理屈は先くも形ぬる 児

涼しい風が日清くりぬる 有

和南くち衣就ぬく中らさ 蕉

念出さくよハ双六く 児

自落るる夢断る幕ハ赤く 有

田く人産る能ても志さく 蕉

先持ハ如く能くも昔ハ世に公ハ 児

終極くも能くも坂く行進る 有

往生もぬるもの多れも是能く 蕉

河原伸くかぢれ乃丸児
舟中をかせば埒の屋々状有
時多しそ筆しと下拂ひ
納所しつ付居しし年々歌児
活神瓶もあれと化さぬ有
童こび乃徳長口より白み月
盆乃世びと望とさぬく
新卒を管巻み秋も括別れ
有児

袴はそりし見と不問守
こころ乃棧場とむらあめ
けせ夜より候と海と地
高乃乃音も雀より鳴り
鳥門てはと控と閑伽桶
人あれを移すと物ハあはれ
よけしと好乃夕夕善と
さうさうと晴さも振て風吹
有児

月見さきくも果も下らふ
有
き光好乃湯垢の湯も親世より
有
ま季はく光てくはとま
有
ま梅は枝のいも湯れも
有
甲へ文あきん名もゆ
有
折引乃ゆと硯乃くもふ
有
秋修の付乃くはと名列
有
まぬ銀八百もくもくも
有

孫加らゆきと髪と切門も
有
お袋の只紙もくもくも
有
まくくもくもくもくも
有
風蘭乃あもくもくもくも
有
まくもくもくもくもくも
有
情まくもくもくもくも
有
まくもくもくもくもくも
有
世の中もくもくもくも
有

目とと流しくと 馬乃と又 崔

知母亭

野有出

我々祖文野双露こもせりし季吟老人乃
門下そのひく吟老人がふび湖春とあ吟
三吟の二百韻とよめてあふわりはるる
延宝八年双露のふくひ字十甲成今七
十ののねとことらんふも樂しむ心つりあ
凡神御ふ今と同一かば我又け遠ふ好ぶが
あふふ田付尾城のあふ通ッかふひく廢て
一也の之吟とよむ心吟 又七十年の後
よつとをも今乃ぬの葉のあふんさは今

葉の乃乃再ひ老るる新のそは葉のあふゆ遠
村くこもつとあふふ吟ふれはるのねと
よむ心吟とよむ心吟とよむ心吟とよむ
て考韻乃枯ふ納めふ事ふあふん

寛延三年歲次庚午秋八月

新仙

反喬舎

一妻より猫乃逆きり敷きり

七ツカ〜岡小日ぬみ門 野有

穢持〜ぬ縁とむき〜く淋〜て 且条坊

鯉〜縁屋〜志〜れ〜り 舎

並折〜り〜ぬ音〜〜橋乃月 有

と〜く〜と〜ま〜は〜礎〜了〜が〜 房

層〜具〜り〜あり〜世〜と〜あ〜り〜く〜座〜ふ〜は〜 舎

舞〜平〜乃〜無〜少〜信〜も〜子〜の〜あ〜も〜ぬ〜り〜 有

上〜下〜み〜ふ〜り〜れ〜と〜同〜一〜長〜者〜有〜町 房

と〜あ〜ん〜乃〜第〜々〜世〜ら〜と〜と〜く〜 舎

換〜ふ〜し〜て〜と〜工〜乃〜舎〜紙〜焼〜く〜並 有

口〜き〜〜〜と〜と〜悠〜々〜と〜と〜れ〜と 房

筈〜垣〜乃〜竹〜〜と〜か〜寺〜と〜も〜乃〜目 舎

種〜乃〜新〜〜ぬ〜物〜と〜と〜々〜〜と〜ん 有

風より毛留の首の毛をえのちよ入て
二度目乃茶巾ハ巾の振種 舎
目とぬりしひて花乃赤山 有
平段乃中紙がんとはき種 房
水加減は考さく紙と汲ぬ之 舎
さしひふるれと造進て外 有
又しつも湯屋てと物めうせしり 房
紙紙紙とくもまんめんがし 舎

紙中まうぬいごふさきまうたご 有





